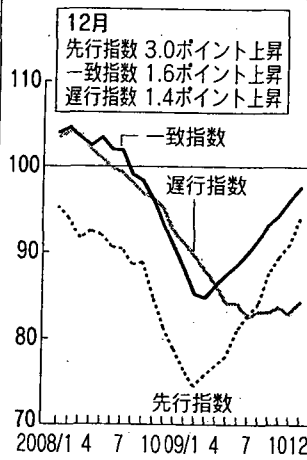


景気一致指数 1.6ポイント上昇

12月、9カ月連続 輸出で生産伸びる

内閣府が5日発表した2009年12月の景気動向指数(05年=100)は一致指数が97・6と前月に比べて1・6ポイント上昇した。前月の月を上回るのは9カ月連続。好調な輸出がけん引する形で鉱工業生産指数や製造業の残業時間(所定外労働時間)が伸びた。指数はリーマン・ショック時の08年10月以来の水準に戻したが、景気が「山」をつけた

景気動向指数(2005年=100)



た07年10月に比べれば9割にとどまる。一致指数をもとにした景気の基調判断は、3カ月連続で「改善を示して

いる」となった。一致指数が9カ月連続で上昇するのは1997年以来。津村啓介政務官は記者会見で「景気は緩やかな

回復が続くと期待できる内容だが、下押しリスクには警戒が必要」と述べた。

一致指数のうち鉱工業生産指数は前月比2・2%増となったほか、製造業の所定外労働時間指数も4・8%増となった。アジア向けだけでなく米欧向け輸出も持ち直していることで、製造業の生産活動は持ち直しを続けている。

先行指数は94・0となり、前月に比べて3・0ポイント上昇した。09年9月に次ぐ過去2番目の伸びを記録した。日経商品指数が好調に推移したほか、

在庫の削減も進んだ。ただ消費者態度指数が2カ月連続で全体を押し下げたおり、マインド面では弱さも出ている。

遅行指数は84・3となり、前月の月を1・4ポイント

回った。上昇は2カ月ぶり。失業率や製造業の常用雇用指数が改善したが、07年10月に比べれば指数全体は8割の回復にとどまる。雇用の増加は緩やかで、一致、先行指数に比べて遅行指数の回復は緩慢だ。